



【教会の存在目的と使命】

説教者：^{ちよんむちよる}鄭南哲 牧師

聖書箇所：マタイの福音書28章18節～20節(新改訳2017版)

(Rev.Jung namchul)

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。19ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、20 わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族！一週間もお変わりありませんか。意外と多くのクリスチャンの方々は教会に通っていても、教会の存在目的や使命について明確な認識がない場合があります。ある方は、教会の存在目的を親交や情報交換の場と考え、教会の使命を集会の中心や交わりの役割程度に捉えることが多いようです。しかし、それらは教会が行うべき重要な活動の一部ではありますが、それが教会の究極的な存在目的ではありません。

皆さんは教会の存在目的が何であるのか考えながら教会に通っていますか。この質問が漠然としているように感じる場合、次のように質問を変えてみましょう。「教会が行うべき最も重要なことは何だと思えますか。」

教会で起こる大部分の争いや対立、衝突の原因を分析してみますと、教会が行うべき最も重要なことが何かについての意見の違いがあることに気がきました。例えば、礼拝が一番重要だと考える方々も、聖書学びが最も重要だと考えている方々の信仰スタイルは異なるかと思われまます。礼拝を最も重要視する人は、聖書学びを最も重要視する人々に対して、彼らは恵みとは距離が遠い人たち、頭だけ大きくなって知的な面だけを満たすことに喜ぶタイプとして考えられがちです。一方で、聖書学びを重視する人は、礼拝を重視する人に対して、彼らは律法主義者のようで、中身、内容のない信仰儀式や形の生活をしている人々かのように見える可能性もあります。

ところが、教会が行うべき最も重要なことは、私たちが決める事項ではありません。

聖書によるとすでにイエス様がそれに教会の存在目的と使命に関して明確に教えて下さいました。すなわち、本文 マタイの福音書28章18～20節に書かれている内容を見ると、次のように語られています。「イエスが来て彼らに言われた。『わたしは天においても地においてもすべての権威を授けられた。それゆえ、あなたがたは行って、すべての国の人々を弟子とし、父と子と聖霊の名によって彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを教えて守らせなさい。見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』」

この言葉こそが、教会の存在目的であると私は信じています。なぜならば、この言葉はイエス様が昇天される直前、11名の弟子たちに最後に与えられた遺言のような御言葉だったからです。ここで、イエス様が特別に訓練された弟子たちを「使徒」と呼びますが、この「使徒」という言葉は「遣わされた群れ」を意味します。複数です。単数の場合は、「使臣(ししん)」あるいは「使者(ししゃ)」だと言います。

彼らの使命は、長期間同じ場所で牧会するのではなく、福音がまだ伝えられてない場所に行って教会を建てあげることでした。そのため、彼らはどこへ行ってもそこで教会を建て、イエス様から命じられたこの務めを果たそうと努め、全てを尽くした人たちでした。このことがまさに教会を建てて下さった存在目的と考えられます。

マタイの福音書28章19、20節には四つの動詞が出てきます。「行きなさい」・「バプテスマを授けなさい」・「弟子としなさい」・「教えなさい」です。原語の聖書を見ると、この四つの動詞の中で、命令形で使われている動詞はただ一つで、それは「弟子とせよ(弟子としなさい)」のみで、他3つは全てが分詞で書かれていたことが分かります。すなわち、原文を直訳すると「あなたがたは弟子を作りなさい；行って弟子としなさい！バプテスマを授け弟子としなさい！教え弟子としなさい！」という命令になります。ですから、結局のところ、教会の存在目的は弟子を作ることであることが分かります。イエス様が望まれた教会となるためには、弟子を育み、弟子を作り出さなければなりません。どれだけ多くの奉仕や礼拝生活、宣教や伝道を行ったとしても、弟子を作らなければ、教会はその存在目的を失っていることとなります。

弟子とは学ぶ人のことです。弟子になるためには、まず学び、次に学んだことを必ず伝授しなければなりません。何を学び、何を伝えるべきでしょうか。それはイエス様の生き方です。イエス様の品性を見習い、イエス様の生き方を模範として見習って、イエス様に似ていきます。これがイエス様の弟子になる道です！時間が経つにつれ、イエス様に似た人、イエス様のように生きる人が増えるとき、その教会は存在目的をよく果たしていると言えるでしょう。

イエス様は弟子を作り出す教会となるための具体的な方法も教えてくださいました。弟子を作り出す教会になるためには、まず「行かなければなりません」。ところが、多くの場合、私たちは来るまで待つことが多いではありませんか。すでに他の教会に通っている人を招き、自分たちの教会に集めることは伝道ではありません。神の目から見たとき、それは何の変わりのないものです。神を嫌う人、神に反対する人々、そして神が必要だと思っている人たちを探し出していくことが伝道の最初の一步です。

5年～7年間ぐらい教会に通うと、未信者の友人がいなくなるという統計を読んだことがあります。よく振り返ってみたら、実は私もそうでした。でもこれは悲劇だと思います。私たちは「行かなければなりません」。昔のお酒の友人たちに行かなければなりません。信じていない友たちを覚えて、彼らに我らが先に行かなければなりません。失われた人々を思い出し、彼らを探しに行く必要があります。(牧場でVIPの為毎週祈ることも行くことにつながり、行くことになります:各自1人ずつ挙げて、牧場のVIPとして祈り続ける:祈りの対象:仲良い人とか、よく知り合いより、あの人に神様が必要される人はだれかで決める)

次に「バプテスマを授けよ」と命じられました。信じていない人々といくら親しくなっても、そのままにしておいては何の役にも立ちません。彼らにキリストを紹介し、受け入れるように助け、バプテスマを授けなければなりません。問題が全くなさそうに見える人々も、実際には孤独の中で人生の虚しさを、色々な悩みを感じている場合が多くあります。私たちはそのような人々にイエス様を紹介しなければなりません。なぜなら、イエス・キリストだけが人生の孤独の問題を、虚しさの問題を解決できるからです。

バプテスマを受けた後は、「守るように教えなさい」と命じられています。それは単なる知識的な聖書学びではなく、弟子を作るための聖書学びでなければなりません。イエス様の姿を模範として学び、益々似ていけるように教える聖書学びが求められます。

多くの教会が組織的に優れており、良いプログラムもたくさんあり、それによって教会内はいつも忙しいですが、本来の目的である「弟子を作る」ことができていない場合が実際多くあります。それは、イエス様が教えて下さった弟子作りの方法論だけに偏ってしまい、教会存在の究極的な目的を忘れていたからではないでしょうか。私たちは教会の働きをしながら目的と方法を明確に区別し、イエス様が私たちに与えて下さった使命を果たし、成し遂げる教会となりますようにお祈り申し上げます。

私は、弟子を作るために最も適している教会仕組みが、家の教会だと信じます。家の教会は全く新しい教会の形ではなく、イエス様がお考えであった教会の姿であります。弟子とするためには、知識とか技術ではなく、生活の態度(生き方)を教えなければなりません。このような教えは小さなスモールグループ単位の中でのみ可能です。大勢を対象にすることは難しいのです。

私は聖書を読みながら、とても不思議に思った箇所があります。例え、マタイ14章、マルコ6章、ルカ9章、ヨハネ6章のパン五つと魚二匹の奇跡を体験した人の数は、男性だけ5千人で、女性と子供含めると、2万人ほどだと十分に推測出来るのではないのでしょうか。ところが、使徒の働き1章を見ると、集まって祈った信徒たちは120人に過ぎません。他の人たちはみんなどこへ行ったのでしょうか。

また、イエス様が神の宮で教えた時に、多くの人々がイエス様の説教を聞き、その教えに驚き、恵まれたのに、イエス様が十字架につけられた時、その人々はみんなどこにいたのでしょうか。

群衆を対象とした説教や聖書学びは、私たちに感動を与え、決心もするようになる時もありますが、具体的な弟子作りにはそれほど大きな効果はなかったことを聖書で教えられます。弟子とは少人数で集まり、生活を分かち合うときに作られます。そのため、イエス様ご自身も、地上で12人を選び、3年間一緒に生活をされました。これがイエス様が弟子を作られた方法でした。

ですから、家の教会はイエス様が与えられた大宣教命令を成し遂げるための最も効果的で、聖書が教えて下さる方法だと信じます。

弟子を作るために、イエス様は「①行け(行きなさい)」とおっしゃいました。しかし、この命令に従って、信じていない人々を連れて来たとしても、伝統的な教会の仕組みでは、その後フォローすることがなかなか十分に出来ません。しかし、家の教会では信じていない人々を招き、彼らを世話することが容易です。家の教会の家族たちが、例え、一緒にボーリングをやったり、食事を共にしながら、互いに助けが必要ならば、助け合うことが実際的に容易く出来ます。このようにして信じていない人々の実際的な必要を満たしながら、キリストと共に生きるとはどういうことかを示し、実際体験させることができます。このような愛の経験が家の教会を通じて積み重ねていくうちに、未信者たちは自然と福音に対する興味を持つようになるでしょう。

「②バプテスマを授けなさい」という命令も、家の教会を通して行うことが非常に効果的だと思います。未信者の方々は、クリスチャンであることを知ると、身を引こうとしたり、避けようとします。会うたびに伝道しようとするのを彼らは知っているからです。もちろん、伝道が決して悪いことではないですが、信じていない人々にとって、自分自身の問題や悩みについては全く関心がなく、一方的に自分のやりたいことだけを話しているように見え感じ取らせてしまう時があります。しかし、私たちが福音を伝えたいと望むなら、そのための資格を備えていなければなりません。「**どうすればあのような生活ができるのだろう、どうやってあのような生き方ができるのか**」という疑問を持たせるように、**自分の生活と生き方を分かち合う必要**があります。これが**家の教会を通じて可能**になります。

「③守るように教えなさい」という命令も家の教会を通して行うことが非常に効果的です。イエス・キリストを受け入れたばかりの人を一番、効果的に育み、ケアしやすい位置にある人は、その人を導いてくれた人です。新しい信者にとって、特別な信頼と親近感を感じているからです。しかし、イエス様を受け入れ信じるように助けて、その後、他の人々に任せることはあまり効果がないことです。その面で**家の教会の中では、VIPのための祈りの中で実際に導かれ、その中で主の愛を体験し、悟られ、イエスキリストを受け入れ信じることになり、一歩ずつ進んでいく中で、益々養われ、キリストの弟子として成長する**ことが出来ます。

愛する教会の信徒の皆さん、イエス様は私たちに使命を与えて下さいました。それは**弟子を作る使命**です。私たちは教会の存在目的を明確に悟り、その目的を向かって進み行きましょう。この過程を通じて、**自分自身がイエス様の似姿に少しずつ似ていき、歪んだ性格が回復され、傷ついた心が癒され、誤った生活習慣が改善される恵みを体験することが出来る**と確信します。

私たちがイエス様の弟子となり、イエス様に似た者として成長しているかどうかをどうやって知ることができるのでしょうか。知る方法は簡単です。**私たちの生活の中で回復と癒しという変化が起こっているかどうか**を見ればわかります。多くの場合、私たちは心の中でそれぞれ深く傷を抱えています。しかし、**自分の傷に集中している間は、癒されることができません。この傷ついた心を他人に差吐き出すか、神様に祈りを持ってささげると少し軽くなります。**しかし、それでも完全に癒されるわけではありません。**イエス様に似た者となっていく時、その傷は自然に癒されていきます。**

イエス様の生涯を見ると、その方の人格の中で最も目立った姿が**「赦し」**でした。イエス様は捕まり、苦しみを受け、十字架で命を捧げられる際、イエス様は何とおっしゃいましたか。日本映画に登場するセリフのように「息子よ、私の仇を討ってくれ!」とはおっしゃいませんでした。ルカの福音書23章34節を見ると、「**父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかわかっていないのです。**」と言われました。これがイエス様の姿です。イエス様のように赦す者になっていく時に、自分の中に癒しの御業が起こるのです。先々週のメッセージでみなさんに伝えたように、ですから、教会は、愛のうちに神の赦しと癒しが起され、体験出来る病院のようなところではないでしょうか。

我ら自分自身も神の赦しと回復が必要な者であることを認めましょう。我らが愛のうちに互いに赦し合い、愛し合っ、イエスキリストのような内側の品性と日常生活の生き方に益々変わっていく真の弟子たちとなりますように心から祈ります。また、我らのような尊いたましが癒され、赦され、神の御救いを受け入れられ、愛のうちにキリストの弟子として生まれ、ともに成長して行く神の家族共同体となるクリスチャンプレイズチャーチの信仰の全家族となりますように心からお祈り申し上げます！25年度にもご一緒にクリスチャンプレイズチャーチの存在目的を忘れず、主から頂いている教会の使命とともに励んで歩みつつ大いに神に用いられる一年となりますように祝福をお祈り申し上げます。アーメン！